



学校教育目標



「**高く 広げよう 学びの力**」
 ～ゆめ チャレンジ 新しい自分～

かかわる力 つながる力 やり抜く力 協働で実践する力
 生活習慣の確立と対話

「うるわしの花かおる たのしい母校 五城目われら」

校長 松野 紳 一

あさひ台の桜も、うららかな春の陽光を浴びて爛漫の季節を迎えました。5日の始業式には転入生1名、6日の入学式には新入生51名を迎え、全校児童279名で平成30年度の五城目小学校がスタートしました。我が町唯一の、町・地域の小学校として、町民や地域の期待に応えるべく、教職員一丸となって、また、家庭や地域と協働で、子どもたちの成長を手助けしていきたいと思えます。

申し遅れましたが、この度の教職員人事異動で歴史と伝統ある五城目小学校の第59代校長を拝命しました松野紳一と申します。どうぞよろしくお願ひします。

5日の始業式及び6日の入学式で、とても印象深かったのは、在校生が転入職員や転入生、新入生を迎えてくれた校歌の歌声でした。自校の校歌に誇りをもって明るい表情で高らかに歌われた校歌は、とても素晴らしく感激しました。

五城目小学校の校歌は、今から64年前の昭和29年に、学校創立80周年を記念して制定されたと記録に残っています。作曲は当時の校長だった渡辺正氏、作詞は、当時五城目小学校に在職していたかどうかは定かではありませんが、県内で教師をされていて、五城目高校の校歌や旧井川村の村民歌なども作詞されていた加藤裕氏との



4 / 20 PTA授業参観日（2年生）

ことです。

曲も軽快で素敵なメロディーですが、その歌詞が秀逸で、自然の恵に満ちた五城目小学校の置かれている五城目の風土や環境をよく表現してくれています。

1番の歌詞の中に「いつもやさしいはぐくみに」とあり、これは現在の私たちが目指している子どもの姿のひとつ『やさしい子』に通じるものであり、2番の歌詞の中にある「きたえて強いわがちから」は同様に『明るく元気な子』、3番の歌詞の中の「みがいてさえるわが心 望みは高く伸びゆくわれら」は、まさしく『かがやく子』を標榜しています。

60年以上も前に作られた校歌が、今現在の学校教育目標に繋がるめざす子ども像を言い得ていることに教育の『不易』を感じずにはられません。

学校が創設されてから144年、校旗・校章が制定されてから94年、校歌が制定されてから64年…子どもたちはもちろんのこと、私たち大人にしてみても、悠久と感じられるこの歳月の間、子どもたちを見守ってきてくれた森山の恵や馬場目・富津内川の清きせせらぎに支えられ、よりよく伸びよう・生きようとする五城目の子どもたちを、教職員一丸となって支え育てていきたいと思っていますので、今年度も保護者、地域、町行政の皆様のお力添えをよろしくお願ひします。



4 / 5 新任式での児童代表歓迎の言葉

